

今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する  
有識者検討会  
— 主な論点 —

1. 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づく教育活動の実施状況、成果及び課題の検証
  - (1) 小学校以降の教育や生涯にわたる学習とのつながり
    - 幼児教育と小学校教育の円滑な接続
      - ・改訂後の幼保小接続の取組の変化
      - ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿の理解と活用
    - 0～18歳の学びの連続性を踏まえた教育の連続性・一貫性
  - (2) 幼児教育の特性等
    - 幼児教育の基本
      - ・環境を通して行う教育の理解
      - ・幼児の主体性と保育者の意図のバランス
      - ・幼児一人一人の発達に必要な体験
    - 幼児期に育みたい資質・能力の育成
      - ・ウェルビーイングの実現に向けどう資質・能力を育みたいか
      - ・育みたい資質・能力、ねらい及び内容、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関係
    - 子供一人一人の特性に応じた指導（保育）の実施
    - 時代に応じた保育方法の在り方（ICTの活用等）
    - 幼児理解に基づいた評価の実施
2. 必要な条件整備
  - (1) 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を着実に定着・実施するための具体的な方策
    - 指導資料や教材の開発、研修の実施等
  - (2) 地域の幼児教育振興の体制の在り方
    - 地方自治体における幼児教育担当部局の在り方
      - ・教育委員会と関係部局の連携、国公立幼稚園の役割等
    - 幼児教育施設への支援
      - ・幼児教育センターの設置、幼児教育アドバイザーの育成・派遣等

※3要領・指針の構造や文言の違いではなく、現場で実際に生じている幼児教育の実践や子供の姿等に関する成果や課題と結びつけながら、今後の教育課程、指導、評価等の在り方等や必要な条件整備について具体的な意見交換を行う。